

# きずな

令和5年 第65号  
 社会福祉法人 賀光会  
 救護施設 賀光寮  
 障害福祉サービス事業所  
 (生活介護) ポプラ  
 発行人：川端 健高  
 藤井寺市藤井寺4-11-8  
 TEL 072-955-0653  
 FAX 072-955-0905  
 E-mail : gakoukai@m5.kcn.ne.jp  
 http://www5.kcn.ne.jp/~gakoukai



謹賀新年  
 令和5年  
 賀光会  
 本年も  
 よろしく  
 お願い申  
 あげます



\* 本誌のきずなは、年賀状の代わりにもさせていただきます。

## 新年ご挨拶

あけましておめでとうございませう。新しい年が皆様にとつて健やかで素晴らしい年でありますよう、心からお祈り申し上げます。新型コロナウイルスの収束が、見通せない中、ワクチンや感染防止対策(マスク、手洗い、三密回避)を行い、賀光会では、クラスターが発生しましたが、大きな拡がりをすることなく新年を迎えることができました。令和5年は、「癸卯(みずのとう)」です。「癸(き)」が持つ意味は、物事の終わりと始まりを意味する他に、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言

われています。「卯(う)」はもともと「茂(しげる)」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯(う)」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われています。この二つの組み合わせの癸卯は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているようです。今年も、新型コロナウイルスが収束し、利用者、地域の方々と一緒に楽しめる行事が、多く取り組めるように期待したいと思います。

ポプラ管理者

中山 善美

### 南藤井寺地区 自主防災訓練

当日は、藤井寺市役所の危機管理室の方や、藤井寺市消防団、柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部の方に立ち会っていただきました。例年、賀光会では、大阪府が主催して行っている大阪880万人訓練に合わせ、防災訓練を実施していますが、今年度は、当法人の評議員で、賀光寮が加入している南藤井寺地区自治会区長の上田氏から、地域と施設と合同防災訓練を実施するお誘いがありました。



地区の住民の方がたくさん参加されました

実際に大きな災害が発生し、地域の方々が困った場合には、福祉施設は、そ

の方々の受け皿となることが想定されます。地域の方と合同で訓練を行うことは、有意義なことですので、参加することになりました。

南藤井寺地区の8町会の住民の方と2法人(賀光会とみささぎ会)の職員や利用者の方が参加することになりました。自主防災訓練は、8月から毎月1回、各担当者が集まり、訓練内容を細かく決めていく打ち合わせを重ねてきました。今回の避難先は、小学校を除くと地域で一番広い敷地の賀光会の南側広場を使うことに決まりました。防災訓練当日は、町会の住民の方、みささぎ会職員、



水消火器を使って消火訓練の体験をしました

賀光会の利用者や職員、合計約120人が避難場所の賀光寮の南側広場に集まりました。

避難体験後に、水消火器を使った消火訓練、屋内テント・簡易ベッドの組立訓練、応急救護・担架の作成体験、煙霧体験の4つの訓練を順番に体験していきましました。訓練の最後には、天ぷら鍋に入っている油が発火したことを想定した消火の実演を柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部の方に行っていたいただきました。天ぷら鍋火災の時に、やってはいけないこととして、油に水をかけて消火しようとしたらどうということになるのか、実際に消防隊



屋内テントの組立訓練をしました

員の方が天ぷら鍋に1杯の水をかけました。すると、たちまち、炎が高く上がり、周りで見ていた参加者は、一斉にびっくりされていました。今回は、屋外で行ったため、何かに燃え移ることがありませんでしたが、屋内でしたら、天井が燃えるような勢いの炎でした。

新型コロナウイルスの感染防止対策のため、3年ほどの間、地域の行事が中止になりました。賀光会バザーが開催できず、地域の方との交流が減ってしまいました。この度、地域住民の方と一緒に防災訓練を行うことで、貴重な体験ができました。

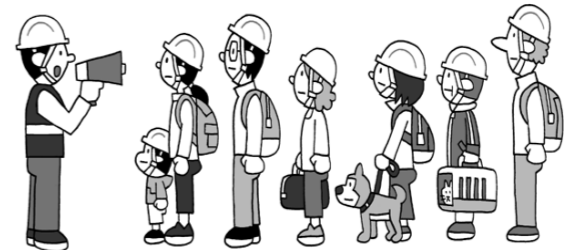


簡易ベッドの組立訓練をしました

事務長 伊藤 昌弘



毛布と洗濯竿を使って担架の作成体験



白い煙を充満させたこのテントで、煙霧体験

### 誕生会

令和4年度は新型コロナウイルスの感染を防ぐため、外食を伴う誕生会は、利用者の了解を得て中止とさせて頂きました。

しかし色々なイベントが中止になる中で、少しでも誕生会を楽しんでいたように検討しました。そして、昼食時にそれぞれ誕生月を迎える方の希望されるメニューのお弁当を注文し、食堂で食べて、誕生会を楽しんでいただきました。

いつもの厨房から提供されるものと違う昼食を



普段と同じく、新型コロナウイルスの感染防止対策をして食事です



ミックス弁当のステーキとハンバーグは、炭焼きです

楽しんでいただくため、どんな弁当が良いか利用者の方の意見を聞きますと、「お肉が食べたい。」という意見が殆んどでした。そこで、肉料理店のお弁当で、「ステーキ弁当」、「ハンバーグ弁当」、「ステーキとハンバーグのミックス弁当」から選んでいただきました。予算内であれば、「デザート」としてケーキも選んでいただきました。

新型コロナウイルスの感染が終息し、集団での会食の規制等が解除されましたら、今後の誕生会につきましては、状況を見て外食による誕生会の実施を検討させて頂いていただく予定です。

です。

支援員 青柳 達雄

### イベント食

美味しく、楽しい食事をしていたくために、月1回イベント食を実施しています。

イベント食の内容は、4月は中華バイキング、5月はかつおのたたき(かつおのたたきが食べられない方はサイコロステーキ)、6月は天ざるうどん、7月はうな井(うな井が食べられない方は牛焼肉丼)、8月はざるラーメン、9月は



中華バイキングは、揚げものや蒸しものなど色々な中華料理を大皿から選んでいただきました

サイコロステーキ、10月は秋尽くしメニュー、11月はおでんバイキングでした。イベント食の中でも、特に人気があるのは、バイキング形式の中華バイキングと、おでんバイキングです。色々な種類からご自身で選択していただくことは、バイキングの醍醐味です。中華バイキングは、唐揚げや豚の角煮と煮卵など、5種類から選んでいただきました。デザートには、大きなバナナプールの付きました。



おでんは、どれも美味しく味が染みていました

から選んでいただきました。デザートは、柿とりんごことバナナとキウイフルーツの4種類もある、とてもボリュームがあるフルーツの盛り合わせでした。利用者の方は、「中華バイキングで、唐揚げを6個も食べたよ！幸せ！大満足！」や、「食べ過ぎたー。晩御飯は食べられないかもー」と話されていました。「ほんまに美味しいわ。毎日イベント食ならいいのになあ。」と、うれしい言葉もいただきました。

これからも、美味しく、皆様が満足していただけるイベント食を提供していきたいです。

栄養士 井土垣裕子



### 陶芸科 〜土鈴作り〜

賀光寮陶芸科では、毎年ポランティアの方々の多大な協力のもと、干支の土鈴を制作しています。令和5年は、兎年で、うさぎの土鈴を制作しました。

日本では、土鈴の歴史は大変古く、はるか縄文時代までさかのぼります。

古来より、鈴の音は徐魔(魔除け)の力を持つといわれ、現在に至るまで神事に用いられてきています。土鈴もまた、その音色により福を招き、悪魔を払う祭礼用とされていたようです。江戸時代になると土鈴は玩具としても愛されるようになり、現在では各地の神



兎の眼や耳は、一つずつ手で描いています



かわいらしい兎ができました後は、「福」と「寿」の文字入れです

社仏閣祭礼縁起にちなんだものや、商売繁盛、学業成就などを祈願する幸福招来土鈴、十二支土鈴や観光用の土産土鈴など…多くの種類の土鈴があり、それらは形状、彩色、音色などそれぞれ違った特徴を持ち、土鈴の素朴さに見入られコレクターの方も多いそうです。

賀光寮では、毎年、西国三十三所第五番札所葛井寺から土鈴制作の依頼を受け、納めています。また、毎年お世話になってい

各種関係者の方々や関係施設にお贈りさせていただいています。今後も、多くの人に手に取って楽しんでいただけるよう、土鈴の制作を行っていきます。

支援員 岸 瑞記

### 調理実習 〜一人料理〜

ポプラでは、生活体験のひとつとして、調理実習を実施しています。今年度は、11月に一人で作って一人で食べるをテーマに行いました。

利用者のなかには、普段自分で食事を用意することがなく、自分でお金をもって外食したことがない方もいます。しかし何らかの事情で、急に一人で過ごすことになったときに、困らないようにと考え、今回のテーマとしました。

メニューは、冷凍ドリア、パック入りのサラダ、レトルトスープ、フルーチェです。冷凍ドリアは、レンジ専



フルーチェは、牛乳にフルーチェの素を混ぜて・・・トロリとさせます



スープは、火傷をしないように電気ポットのお湯を注ぎます

用のものを選びました。自分でパックを剥いてもらい、一人ずつ順番にドリアをレンジまで持って行っていただきます。レンジについては家のレンジと使い方が違うこともあり、支援員が加熱時間の設定を手伝いました。

ドリアができるのを待っている間に、サラダの盛り付けや、レトルトスープの粉をカップに開けていただきます。

フルーチェは、手の空いた利用者の方3人に順番に作ってもらいました。フルーチェについては、何度もポプラの調理実習で作っていることもあり、牛乳を計るときにカップを支えるくらいで、危なげ

なくできていました。

自作というスパイスが効いたのか、普段のポプラの給食では野菜を全く食わず、残される方が野菜サラダを半分以上食べられていました。皆さん笑顔で、「おいしいわ」「これなら一人で作れるわ」と喜んでいました。

支援員 大坪 馨

### 編集後記

今回の「きずな」第65号は、南藤井寺地区自主防災会を中心に掲載させていただきました。

今年は、W杯が開催されました。優勝は、メッシ率いるアルゼンチンでした。メッシにとっては、サッカーの数ある賞の中で唯一獲得できていない賞でしたが、悲願の優勝となりました。今大会でW杯の出場を最後に引退する予定でしたが、「次回のW杯も出たい。」と表明されました。次回のW杯も楽しみます。